

郡山女大家政 ○関口富左 須田秀幸 高館作夫 影山彌 奥船 均

目的 現状の家庭および家政学における非合理の意味を考察し、家政学の今後部面を検討する。

方法 1, 家政学雑誌にみられる家政学研究の動向について検討する。
2, 諸文献に依拠しつつ、主題内容を把握する。

結果 オ1報においてのべたように、人間生活においては、非合理を中心として合理の問題が展開されなければならない。この非合理、すなわち、愛、信頼等の人間の諸行為こそ人間生活が醸成され、生活が成立されるものである。換言すれば人間と科学との問題もここにあるので、非合理の問題は、人間主体の家政学の中心課題である。